

# YA 通信

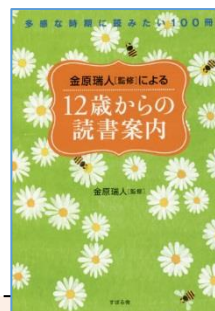
№77 2017年9月号  
春日井市図書館発行

YA(ヤングアダルト)世代  
= 10代のみなさんのた  
めの読書情報誌です。  
ご紹介する本は特に記載  
がない限り、図書館3階Y  
Aコーナー所蔵です。



YAコーナーに新しく入った本から  
ピックアップ。

New!!



## 『金原瑞人<監修>による12歳からの読書案内』

金原 瑞人/監修 すばる舎 01/カ/17

この本は、ヤングアダルト向けのブックガイドです。  
一歩踏み出す勇気をくれる本や空想の世界に羽ばたける本など  
ジャンルわけされて、なんと！！計100冊も紹介しています。  
面白いのは、掲載されている紹介文をそれぞれ違う執筆者が書い  
ているという点！

書き方は紹介文でも小説と同じようにその人によって違ってきま  
す。この紹介文の書き方は好きだからきっと同じような本を好きに  
なるとか、この人の書き方は私とは違う感じ方だから違う視点から  
物語が読めるかもなど、きっと面白い使い方ができると思います。  
本選びで悩んでいるあなたにおすすめます☆

## 名作 たからばこ



### 『不思議の国のアリス』・『鏡の国のアリス』

ルイス=キャロル/作 ジョン=テニエル/絵 脇 明子/訳

岩波書店 93/イ7/99 閉架児童

ディズニー映画でも有名な「不思議の国のアリス」。「不思議の国のアリス」と「鏡の国のアリス」があります。「不思議の国」は、喋るウサギを追いかけていくうちに不思議な世界へ迷い込んでしまうお話。「鏡の国」は、鏡を通り抜けてチェスの駒が動き回る鏡の世界へ迷い込んでしまうお話です。どちらの作品も、言葉遊びや奇妙な“ルール”（「のどが渴いたらビスケットを食べる」など）が散りばめられ、大人になって改めて読んでもやっぱり訳が分からなくて、とても楽しく読めます。

ジョン=テニエルの挿絵が、物語の独特の雰囲気をついそうひきたてています。

# テーマ 言葉

今回のテーマは、人と人とのコミュニケーションに欠かせない「言葉」。毎日何気なく使っているからこそ、たまには「言葉そのもの」に目を向けてみませんか？

日本独自の歴史のなかで生まれた言葉、外国語と不思議な共通点がある言葉…ここに紹介する本が、いろんな「言葉」を知るきっかけになれば嬉しいです。



## 『日本の言葉の由来を愛おしむ』

高橋 こうじ/著 東邦出版 812/ニ/17 4階一般

みなさんは、何でこう呼ぶようになったのだろうか？表現するようになったのだろうか？と思った言葉はありませんか？

言葉にはそれぞれに由来があります。

この本は、「桃」「里芋」などの食べ物から「ふんわり」「にこにこ」という表現まで、著者が選んだ言葉と由来が5章にわけて紹介されています。

辞書とは違いたくさんの言葉が載っているわけではありません。

しかし本にもでてきますが、知ると幸せな気分になる言葉が集まっているので読んだ後はとても心が満たされる1冊です。

## 『東京のきつねが大阪でたぬきにばける 誤解されやすい方言小辞典』

篠崎 晃一/著 三省堂 818/コ/17 4階一般

信号や電球が「ぱかぱかする」は、方言だってご存知ですか？

当たり前に使っている言葉でも、共通語に同じ読み方で全く異なる意味の言葉がある場合があります。この本では、そんな誤解がおきそうな方言をまとめ、解説しています。

「日照りでたんぼがはしゃいだ」「いきなりおいしい！」などなど、一瞬「え!？」となる方言がたくさん。

(この方言たちの意味は、是非本を読んで確かめてください！)

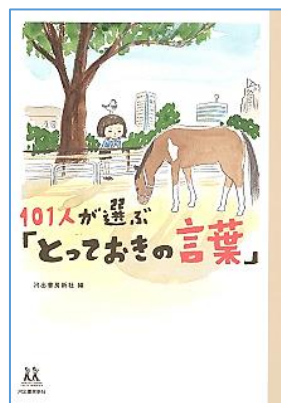


## 『101人が選ぶ「とっておきの言葉」』

河出書房新社/編 河出書房新社 15/ヒ/16

言葉には力があります。本で読んだりテレビやラジオで見聞きしたりした言葉や、友達や家族、先生等身近な人たちからの言葉に勇気づけられたり、ずっと覚えていて心の支えになっていることってありますよね。

この本には、作家、元スポーツ選手、芸人、学者などさまざまな分野で活躍する人たちが大切にしている言葉や10代のみなさんに贈りたい言葉が載っています。中には「なぜこの言葉？」と思うものもあるかも…。でも、きっと今のあなたの心にグッとくる言葉が見つかるはず！探してみてくださいね。



## 『日本人の知らない日本語』 蛇蔵/著、海野 凧子/著

メディアファクトリー(KADOKAWA) 810.4/ニ/09 4階一般

日本語教師の凧子先生と外国人生徒のコミックエッセイ。

外国人生徒の中には、仁侠映画マニアのフランス人マダム、時代劇大好きスウェーデン人など、いろいろな人がいて、ヤクザ口調と普通の日本語の使い分けが難しかったり、武士言葉を使いたがったりと、教室では、今の私たちが使わない日本語が飛び交ったりします。

そんな外国人生徒たちは、「冷める」と「冷ます」の違いや、年齢を書くときに「才」と「歳」のどちらを使えばいいのかと、素朴な疑問を毎日、先生にぶつけてきます。

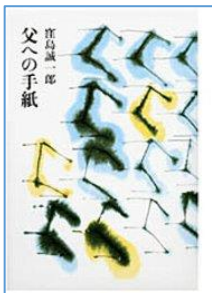
普段、母国語として日本語を使っている私たちですが、みなさんはこの疑問に答えられますか。

この本では、日本語の難しさと奥深さを楽しく再発見できます。ちなみに私たちが使っている「しゃもじ」の「もじ」は、昔の女性が使っていたギャル語のようです。

時代の移り変わりとともに変化していく言葉。面白いですね！



## ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会)



『父への手紙』 窪島 誠一郎/著 筑摩書房 914.6/909/J

閉架一般

「無言館」館長の衝撃の半生。自分の出生に疑問を持った著者の問いに、養父母はかたくなに口を閉ざす。それはなぜなのか、本当の親は誰なのか、アイデンティティを求めて真実を知る旅が始まる。背景に戦争があるとはいえ、人は自分と向き合うことでしか進めない。それは普遍的なことなのだ。

### 話のタネに!



テーマ：ビアトリクス・ポター

今回はビアトリクス・ポターについて取り上げてみました。「ピーターラビット」の生みの親と言えばご存じでしょうか？世界中で愛され、読み継がれているピーターラビットシリーズの作者ビアトリクス・ポターは、昨年生誕150周年を迎え各地で記念の展覧会が行われています。名古屋でも9月から始まります。

以前からピーターラビットを好きな人も今まで興味のなかった人も、彼女の素顔をのぞいてみませんか？



『ピーターラビットとビアトリクス・ポターの世界』

カミラ=ハリナン/著 大日本絵画 726.5/ヒ/02 4階一般

ビアトリクス・ポターの生い立ちや、ピーターラビットをはじめとするポターが生み出したたくさんのキャラクターが紹介されている本です。大型本でそれぞれのページには美しいイラストや写真がふんだんにちりばめられ、のんびり眺めるだけでも楽しめます。巻末の『ピーターラビットの地図』は絵本と照らし合わせながら見るのも楽しそうですね。



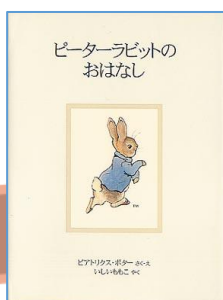
『ピーターラビットの世界へ』

河野 芳英/著 河出書房新社 726.6/ヒ/16 4階一般

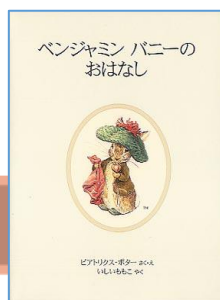
ビアトリクス・ポターの研究をしている著者が、ポターの生涯一生まれ育った環境や人間関係までをととくわしく解説しています。物語の誕生秘話、主な作品それぞれについての解説や楽しみ方などもあり、ポターの作品を知っている人もまた読み返してみたいくなるような内容となっています。

展覧会へ行く前にこの本を読んでおくことより楽しめるかもしれませんね。

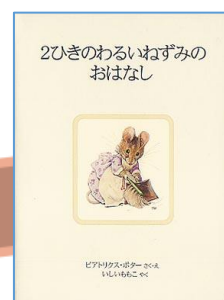
ピーターラビットシリーズやその作者について知った後は、絵本も読んでみませんか？



『ピーターラビットのおはなし』



『ベンジャミン バニーのおはなし』



『2ひきのわるいねずみのおはなし』

ビアトリクス=ポター/作・絵 福音館書店 E/7ク/02-15

(3冊共通) 3階児童





# YA担当イチオシ!

## 『九十九怪談 第1夜』

木原 浩勝/著 角川書店 147/ツ/08-1

### どんな本?

3階一般

著者の木原さんは、スタジオジブリで『天空の城ラピュタ』、『となりのトトロ』、『魔女の宅急便』を手がけてきた人です。

怪談と聞くと気味悪く、怖いイメージがあり、この本にもそういう話は入っているものの、それだけではなく、いろいろな種類の不可解な「怪」が集められています。

### ここがオススメ!

怖い話を読みたいけど、怖すぎるのはちょっと……という人は、この本から読み始めるといいかもしれません。

淡々とした語り口調で、ヘンな解釈やオチはありません。文章に無駄がなく、行間に漂う独特の雰囲気があるので、読み終わった時に、背中から這い上がってくるような、じわりとした怖さがあります。

この本で怪談に少し慣れたら、中山市朗さんとの共著で、怖さがさらに増す『新耳袋 現代百物語』シリーズを読んでみると、面白いと思います。どちらの本も1冊に収められている話数は99ですが、一度に読まない方がいいかもしれません。なぜなら……あとは、読んでみて怪談の世界を味わってください。

## YA(ヤングアダルト)コーナーって?

図書館3階雑誌コーナーのとなりです。たとえば、こんな本があります。

- ◎10代向けの小説・読み物
- ◎勉強・進路・職業に関する本
- ◎いろんな悩みの解決に役立つ本  
(学校生活・友だち・恋愛・家族・心と体 など)
- ◎自分の世界を広げるための本(趣味やスポーツ)

「〇〇について調べたい!」  
「△△の本はどこ?」など、  
本に関する相談や探し物は  
職員に気軽に聞いてみてね。



春日井市図書館

春日井市鳥居松町 5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

ケータイサイトはQRコードから→



※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。